

シリーズ

豊中駅前の歴史を振り返る

第20回 本町1丁目 能勢街道沿い周辺

このシリーズは、豊中駅前がどのように形成され、変遷を重ねてきたかを振り返り、これからのまちづくりに活かしたいと考え企画しました。今回は能勢街道沿いにお住まいの津浦さんにお話を伺いました。

——最近、能勢街道が話題になっています。摂津水都本町支店の横にも、新しく石碑が建てられました。が・・・

【津浦氏】私が小さい頃、昭和15~20年頃でしょうか、まだ能勢街道の雰囲気が残っていましたね。私の家も「中2階の出格子」の建物でした。その家で生まれ育ちました。稼業は代々材木屋でしたが、戦後大阪市内に店を移しました。この通りには畳屋さん、建具屋さん、表具屋さん、左官屋さん、大工さん、石屋さんなど職人さんのおうちが多かったように思います。国道176号（その頃は「産業道路」と呼んでいました）から入る西北角には大きなお屋敷があり、その隣が魚元さん、紳士服のお店、畳さんと続き、道を隔てて「中村旅館」がありました。岡町に向ってもう少し行くと、「大西旅館」があり、能登田の畳さんの向かいには「紀田梅」という、明治時代からのタバコ屋さんがありました。旅館が幾つかあったのも、昔の街道沿いの名残でしょうね。戦後にはもう営業はされていないかと思うます。

——その「中村旅館」とは今「長尾ビル」になっている所だと思うのですが、その角にお地蔵さんがありますね。

【津浦氏】「栄地蔵」のことですね。その昔、あの辺りはため池になっていたそうで、夢のお告げがあり、その池の中に沈んでいるお地蔵さんを見つけ、引き上げてあの場所に祭ったそうです。その引き上げられた方の子孫が今も講元をされています。「栄地蔵」は近隣に住む私たちのシンボルです。私たちは「栄地蔵」の「栄」を頂き「栄会」という婦人会を作っています。以前住んでおられ方も必ず1年に4回の集まりには、参加されています。結構遠い所からでも来られます。昔は近所同士ほんとうに仲が良かったです。次の世代



栄地蔵

にも引き継げればと願っています。

稲荷神社の秋祭りに3年前に登場した「女性みこし」は、戦後まもなくの頃、栄地蔵の近隣四軒の有志が子供みこしとして購入、本町1丁目自治会に寄進したものです。長い間大勢の子供たちが法被（ハッピー）姿で御輿を担ぎ、お祭を楽しんでいましたが、ここ数年間神社の倉庫に預けられていたのが復興されたのです。子孫として嬉しく思っています。

戦後、あの辺りが大きな火事に見舞われ、オアシスの方まで焼けてしまいました。今、お地蔵さんからオアシスまで道がありますが、この道はその火事がきっかけで出来たと聞いています。因みにオアシスのある所には、「蓬萊湯」という銭湯が戦前からありました。

——私も岡町へ行くときはこの能勢街道を歩くのですが、旧街道の面影を感じる事があまり無いような気がします。今も畳屋さんや建具屋さん、石屋さんなどがありますが。

【津浦氏】やはり「阪神淡路大震災」のせいですね。あの地震で建て替わってしまったおうちが沢山ありますから。私も岡町にはよく行きますが、国道や高架できれいになった道より、能勢街道の方が歩きやすく、人の息吹が感じられるほのほのとした道だからでしょうね。

——今日は有り難うございました。

（津浦由子氏のプロフィール）

昭和10年生まれ 本町1丁目在住

■ お詫びと訂正

「前号の『へび神社』のくだりについて」

歴史シリーズ第19回で「通称「へび神社」と呼ばれている所ですね。入り口に小西何某の石碑が両側に建っていますね。聞いたところによると、「小西儀助商店」の家族ではないかということです。」とお伝えしましたが、石碑には「小西鹿三郎」の名が刻まれており、へび神社の辺りに長くお住まいの方であることが今回の津浦さんの取材で判りました。お話を伺いました辻本様からはこのお話の真偽は定かではないとお聞きしたにも拘らず、誤解を招く記事を書きました事を、辻本様をはじめ読者のみなさまには、心からお詫びいたします。